

小松市未来型図書館等複合施設整備・運営事業

審査講評

令和8年(2026年)7月14日

小松市未来型図書館等複合施設整備・運営における
事業者選定審査委員会

小松市未来型図書館等複合施設整備・運営事業 審査講評について

小松市未来型図書館等複合施設整備・運営における事業者選定審査委員会（以下「審査委員会」という。）は、「小松市未来型図書館等複合施設整備・運営事業」（以下「本事業」という。）に関して、小松市未来型図書館等複合施設整備・運営事業審査基準（以下「審査基準」という。）に基づき、提案内容について厳正かつ公正な審査を行い、最優秀提案を選定しましたので、本審査講評を報告します。

令和8年7月14日

小松市未来型図書館等複合施設整備・運営における事業者選定審査委員会
委員長 難波 悠

目次

1	審査委員会の体制	3
2	審査委員会の開催経緯	3
3	審査の手順.....	4
4	審査の結果.....	4
5	審査講評	10

1 審査委員会の体制

審査委員会の構成員は、以下のとおり。

(順不同、敬称略)

委員長	難波 悠	東洋大学 経済学研究科 公民連携専攻 教授
副委員長	川崎 寧史	金沢工業大学 建築学部 教授
委員	野末 俊比古	青山学院大学 教育人間科学部 学部長・教授
委員	杓谷 茂樹	公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科 学科長・教授
委員	安岡 美佳	デンマーク ロスキレ大学 准教授
委員	吉田 良晴	九九谷 代表
委員	越田 幸宏	小松市 副市長

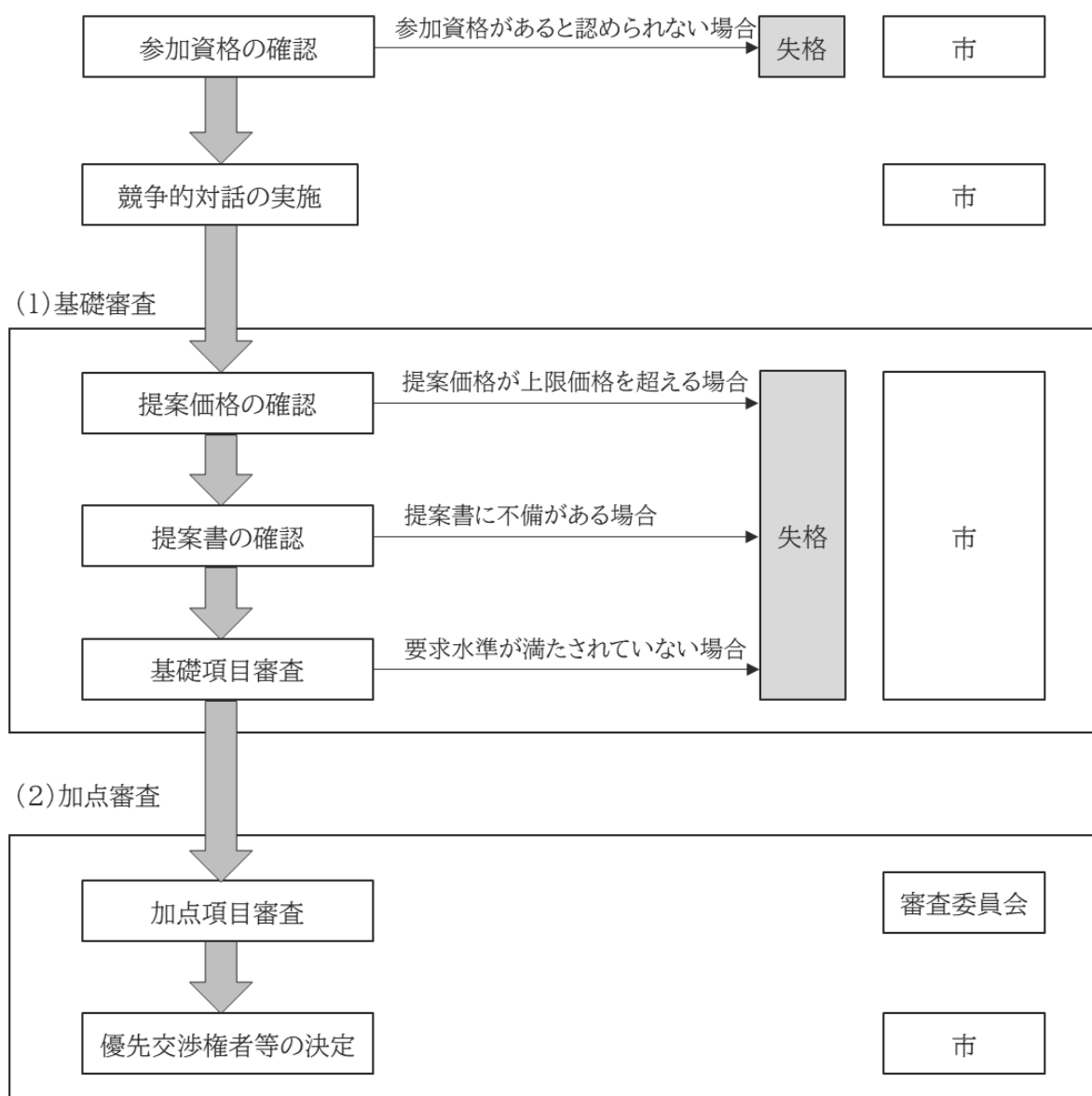
2 審査委員会の開催経緯

以下のとおり、審査委員会を開催した。

日程	内容
令和7年7月14日	第1回審査委員会(審査委員会設置要綱の確認等)
8月18日	第2回審査委員会(実施方針(案)・要求水準書(案)等の審議)
9月19日	実施方針(案)及び要求水準書(案)の公表
11月19日	実施方針及び要求水準書(案)の公表
11月20日	第3回審査委員会(募集要項等の審議)
11月25日	特定事業の選定及び客観的評価の公表
12月23日	募集要項等の公表
令和8年2月6日	参加表明書及び参加資格確認申請書の受付
2月24日 ～3月6日	第4回審査委員会(プレゼンテーションの実施概要等の審議) ※書面開催
3月16日・23日	第1回競争的対話
4月15日	第2回競争的対話
6月8日	提案書の受付
6月25日	第5回審査委員会(提案内容に係る審議等)
7月12日	第6回審査委員会(事業者へのヒアリング、最終提案の選定)

3 審査の手順

本事業における優先交渉権者等の決定は、公募型プロポーザル方式に基づき、次の手順で実施した。なお、図中右囲みの「市」又は「審査委員会」は、手続の実施者を示すものである。



4 審査の結果

(1) 参加資格審査

令和8年2月6日までに、3グループから参加表明書の提出があった。参加資格確認申請書等の書類に基づき、応募者の構成、参加資格などの適否について市において審査した結果、提出のあった3グループはいずれも参加資格要件を満たしているという報告を市から受けた。

(2)基礎審査

参加資格を有する3グループから提案書の提出があった。提案価格が上限価格を超えていないか、提案書に不備がないか及び要求水準が満たされているかについて市において審査した結果、提出のあった3グループがいずれも基礎審査を通過したという報告を市から受けた。

提案書を提出した3グループの構成は以下のとおり。

グループ名	熊谷組グループ(登録番号6)
代表企業	株式会社熊谷組 北陸支店
構成企業	加越建設株式会社 株式会社日展 アルコット株式会社 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 アクティオ株式会社
協力企業	株式会社環境デザイン研究所 株式会社双星設計

グループ名	未来型図書館パートナーズ(登録番号7)
代表企業	大和リース株式会社 金沢支店
構成企業	株式会社トークン 小松本社 丸善雄松堂株式会社
協力企業	株式会社隈研吾建築都市設計事務所 株式会社浦建築研究所 株式会社丸西組 株式会社吉光組 株式会社ムラヤマ 株式会社フクシ・エンタープライズ 株式会社編集工学研究所 太平ビルサービス株式会社

グループ名	清水建設グループ(登録番号8)
代表企業	清水建設株式会社 北陸支店
構成企業	有限会社マル・アーキテクチャ 株式会社山岸建築設計事務所 株式会社豊蔵組 シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社 金沢営業所 株式会社図書館流通センター 株式会社ホクタテ 金沢支店
協力企業	株式会社トータルメディア開発研究所 株式会社小松 DMC

(3)加点項目審査

加点項目審査では、応募者によるプレゼンテーション及び質疑応答の実施内容を踏まえ、提案内容が要求水準を充足し、各審査項目について優れた内容であるかどうかの審査を行った。

なお、審査の公平性を確保するため、審査は応募グループ名を伏せ、記号(登録番号6～8)により行った。

① 審査項目別の配点

加点項目審査における、審査項目別の配点は下表のとおり。

なお、各審査項目の詳細は、審査基準のとおり。

審査項目		配点
提案内容に関する審査項目		800 点
	(1)全体計画	120 点
	①事業実施方針	30 点
	②実施体制	30 点
	③経営管理	20 点
	④リスク管理	20 点
	⑤地域貢献	20 点
	(2)設計・建設業務	250 点
	①取組方針	40 点
	②施設配置・景観	40 点
	③建築計画	40 点
	④設備計画	40 点
	⑤建設・工事監理	25 点
	⑥サイン計画・VI(ヴィジュアル・アイデンティティ)	20 点
	⑦什器・備品	20 点
	⑧市民共創	25 点
	(3)運営業務	330 点
	①取組方針・人員配置	40 点
	②全体運営	40 点
	③開館準備	30 点
	④図書館機能	50 点
	⑤博物館機能	40 点

	⑥コレクションハブ	40 点
	⑦市民共創・リビングラボ支援	50 点
	⑧融合システム構築・運用・保守	40 点
	(4)維持管理業務	60 点
	①取組方針	30 点
	②保守管理、環境衛生・清掃、警備	25 点
	③長期修繕計画	5 点
	(5)付帯事業	40 点
	①カフェの設置・運営業務	25 点
	②自主事業、その他付帯事業	15 点
提案価格		200 点
合計		1,000 点

② 提案内容に関する審査項目の得点化方法

提案内容に関する審査項目の審査では、それぞれの審査項目について、次に示す5段階評価により採点した。

評価項目ごとに各委員の評点を平均し、合計したものを各応募グループの得点とした。

判断基準	評価	得点化方法
極めて優れている	S	配点× 1.00
非常に優れている	A	配点× 0.75
優れている	B	配点× 0.50
やや優れている	C	配点× 0.25
要求水準を満たす程度である	D	配点× 0.00

③ 提案価格の得点化方法

提案価格の得点は、次に示す式により算出した。

$$\text{提案価格の得点} = \text{全応募者中の最低価格} \div \text{各応募者の提案価格} \times \text{提案価格の配点}$$

④ 評価結果

評価結果は、以下のとおり。

(ア) 提案内容に関する審査項目の得点

審査項目		配点	登録番号6	登録番号7	登録番号8
全体計画	事業実施方針	30	16.1	21.4	21.4
	実施体制	30	19.3	20.4	19.3
	経営管理	20	10.0	11.4	12.1
	リスク管理	20	10.7	13.6	12.1
	地域貢献	20	11.4	15.7	12.1
	小計	120	67.5	82.5	77.1
設計・建設業務	取組方針	40	24.3	28.6	32.9
	施設配置・景観	40	24.3	25.7	22.9
	建築計画	40	28.6	31.4	31.4
	設備計画	40	21.4	24.3	27.1
	建設・工事監理	25	12.5	14.3	14.3
	サイン計画・VI (ヴィジュアル・アイデンティティ)	20	10.0	11.4	11.4
	什器・備品	20	11.4	13.6	12.9
	市民共創	25	12.5	16.1	14.3
	小計	250	145.0	165.4	167.1
運営業務	取組方針・人員配置	40	22.9	28.6	25.7
	全体運営	40	22.9	31.4	28.6
	開館準備	30	15.0	23.6	20.4
	図書館機能	50	26.8	41.1	35.7
	博物館機能	40	20.0	27.1	25.7
	コレクションハブ	40	21.4	30.0	27.1
	市民共創・リビングラボ支援	50	26.8	35.7	33.9
	融合システム構築・運用・保守	40	24.3	30.0	22.9
	小計	330	180.0	247.5	220.0
維持管理業務	取組方針	30	17.1	18.2	20.4
	保守管理、 環境衛生・清掃、警備	25	14.3	15.2	15.2
	長期修繕計画	5	2.7	3.0	3.0
	小計	60	34.1	36.4	38.6
付帯事業	カフェの設置・運営業務	25	16.1	15.2	16.1
	自主事業、その他付帯事業	15	7.5	10.2	8.6
	小計	40	23.6	25.4	24.6
提案内容に関する審査項目の得点合計		800	450.2	557.1	527.5

(イ) 提案価格の得点

区分	配点	登録番号6	登録番号7	登録番号8
提案価格	－	17,432,944,700 円	17,444,999,999 円	17,420,263,675 円
提案価格の得点	200	199.9	199.7	200.0

(ウ) 総合評価

区分	配点	登録番号6	登録番号7	登録番号8
提案内容に関する審査項目の得点	800	450.2	557.1	527.5
提案価格の得点	200	199.9	199.7	200.0
合計得点	1,000	650.0	756.9	727.5

※端数処理の関係上、合計得点が各項目の合計と一致しない場合がある。

⑤ 最優秀提案の選定

審査委員会は、総合評価の点数が最も高かった登録番号7の提案を最優秀提案として選定した。

5 審査講評

(1) 各審査項目の講評

審査委員会における提案評価の過程で、各審査項目において高い評価を得た主な事項は、以下のとおりである。

① 全体計画

登録番号6は、本事業のビジョンを受け、まちの「情報・つながり・とき」を読み解き、共創の場を「こまつクリエイション」をコンセプトに市民活動や地域資源をつなぐ拠点として捉えている点を評価した。

登録番号7は、「未来のひらく庭」を中心に、市民の日常的な滞在、学び、活動、地域への展開を生み出す考え方を高く評価した。また、市内外を含め高い関心表明や、地元建設企業による建設業務の地元発注、運営段階の地域連携体制の構築など、地域貢献の具体性・実行性についても高く評価した。

登録番号8は、「編む・巡らす・紡ぐ」という本事業のビジョンを、小松市の交通結節性、歴史・文化、ヒト・モノ・コトの出会いという地域文脈に結び付けた点を高く評価した。

② 設計・建設業務

登録番号6は、芦城公園や周辺市街地との連続性を意識し、まちに開かれた施設配置は、公園の緑や眺望、小松の歴史・文化を取り込む思想が示されており、芦城公園と一体的な公共空間をつくるという点を高く評価した。また、多目的スペースや市民ギャラリー、イベントスペースを移動壁面、可動書架により、複数機能の相互利用や、将来的な利用形態の変化に対応できる建築計画も高く評価した。

登録番号7は、芦城公園を庭のネットワークに転換し、市民回廊や屋内外のまわり縁、8の字スロープによって複合施設と公園が一体化する取組方針や、スロープを介し回遊性と居場所や多様な機能が融合・連携する建築計画を高く評価した。また、共創のロードマップにより、設計、工事、開館準備へと段階的に接続する市民共創の具体性を高く評価した。

登録番号8は、小松城の浮島を現代的に再構成したコンセプトや7つのテーマフロアを立体的にめぐり、中央吹抜けや多様な機能を自然に交差させる施設計画を高く評価した。また、詳細な設計・建設の工程計画を示され、BIM やフロントローディング等による設計と施行の整合性を図る点も高く評価した。

③ 運營業務

登録番号6は、本事業を従来的な図書館の延長線上と捉えず、多様な主体とつながり続け、自らもまちのプレイヤーとして参加する姿勢や、コーディネー

ターの関与による伴走支援による多様な機能を横断して運用していく点は評価した。また、コンセプト「シンプル」をもとに UI/UX、横断検索、施設利用のスマート化などデジタル技術の活用による利便性向上策を高く評価した。

登録番号7は、共創の「問い」を起点に編集運営を基本として、まちへのつながりや学びが示されており、運営の質を高めるアドバイザリーボードや幅広い意見を取り込む仕組みの提案を高く評価した。また、コレクションハブを市民や地域の記憶・活動をつなぐ場として捉え、階層ごとに分けた体験と施設全体を回遊させる仕組みや、リビングラボへの深い理解に基づく、市民を共創の主体に育てていくプロセスなどの具体性も高く評価した。

登録番号8は、図書館・博物館や多様な機能と公園をつなぎ、新たな体験を生み出していく運営の仕組みや、コレクションハブを機能融合による新たな価値創造を象徴する空間と理解し、7つのハブの構成や生きた知の拠点としての運営の提案を高く評価した。また、市民主体での運営を見据え、整備・開館準備から運営とつながる具体的な工程や運営方針も評価した。

④ 維持管理業務

登録番号6は、施設価値を維持しながら市民活動を支える考え方や、北陸の気候への対応や研修内容を示した適切な管理体制、AI カメラや清掃ロボットの導入による警備や清掃の品質向上の提案を高く評価した。

登録番号7は、施設価値を長期的支える考え方や安定した維持管理体制が示され、AIカメラによる警備体制やデジタル技術の活用を踏まえた維持管理方針、持続可能な人員体制に関する提案を高く評価した。

登録番号8は、運営と維持管理を一体化し、市民共創型維持管理の体制づくりが示され、気象等の地域特性への対応やデータの一元管理、AI 画像監視などデジタル技術の活用を踏まえた持続可能管理体制の提案を高く評価した。

⑤ 付帯事業

登録番号6は、カフェ区画と図書館機能を分離せず、施設全体をカフェのように利用できる空間構成や休館日におけるカフェ営業の継続など、市民のサードプレイスとなることが期待できる点を高く評価した。

登録番号7は、地元の文化・食・産業・人材を活用しながらカフェ機能と施設の各機能を結び付ける施策の提案や、多種多様な自主事業に市民が主体的に取り組むことで、地域の人や物事がつながることが期待できる点を高く評価した。

登録番号8は、カフェを各機能のハブとして位置付け、施設内の各機能や芦城公園へシームレスに誘導することで各機能との融合が期待できる点や、カフェのメニューを市内店舗への来訪につなげる提案を高く評価した。

(2)総評

本事業では、公募プロポーザル方式により事業者の募集を行ったところ、3つのグループからの提案があった。各応募グループの提案は、いずれも、豊富な経験に裏打ちされた、民間事業者ならではの創意工夫と革新性に溢れたものであり、市が定めた要求水準を上回る優れた内容であった。

審査委員会として、本プロポーザルに参加していただいた各応募者の皆様には、このような高水準の提案を提出いただいたことに対して、感謝を申し上げたい。

登録番号6の提案は、地元とのつながりを重視したコンセプトや、芦城公園や周辺市街地との連続性を意識したまちに開かれた施設配置、将来的な利用形態の変化に対応した可変的な多機能空間等の建築計画を高く評価した。また、コーディネーターによる伴走型運営や「シンプル」をコンセプトとしたデジタル技術の活用、カフェと図書館機能を一体化したサードプレイスの形成など、利用者の利便性を重視した提案を高く評価した。

登録番号7の提案は、「未来のひらく庭」というコンセプトを軸にした市民の滞在・学び・活動を促す考え方を踏まえ、芦城公園と複合施設を一体的に捉え、周辺環境との調和を意識した施設計画と多様な機能が融合する建築計画を高く評価した。また、共創の「問い」を起点に広い視野で地域をつなげる運営手法や、リビングラボへの深い理解に基づき市民の主体性を育てていく市民共創プロセス、地域貢献について具体性・実行性をもって提案されていた点も高く評価した。これらについて、価格を含めて総合的に評価した結果、1位となった。

登録番号8の提案は、本事業のビジョンを市の様々な地域文脈に結び付けたコンセプトや、小松城の浮島を現代的に再構成した7つのテーマフロアと中央吹抜けによる立体的な施設計画、コレクションハブを核とした機能融合による新たな価値の創造や、生きた知の拠点としての運営を高く評価した。また、市民主体の運営を見据え、整備・開館準備から運営へとつながる具体的な工程や運営方針など市民共創を重視した提案を総合的に高く評価した。

審査委員会の委員一同、市及び登録番号7の両者が、本事業をより良いものとするために、事業期間を通じて継続的な改善に努めることを期待したい。

なお、本事業においては、事業者選定プロセスの透明性及び公平性を確保するため、プレゼンテーションの一部を市民に公開して実施し、約350名の市民にご来場いただいた。本事業について、市民の皆様の高い関心を寄せていただいたことに、審査委員会として感謝申し上げたい。

最後に、今回参加いただいた3グループに対し、社会情勢が大きく変化するなか、限られた時間で質の高い提案をいただいたことに深く感謝するとともに、その熱意及び姿勢に敬意を表したい。